

## 令和4年度第2回調査・研究委員会 会議録

- ◇日 時 令和4年9月13日（火）14:00～15:45  
◇場 所 オンライン開催  
◇出席者 柳楽委員長、嶋田副委員長、加藤委員、林委員、山本委員、清原委員  
事務局（田貝、伊藤、田淵、竹内）

### 1 開会

- ・委員長あいさつ

### 2 報告事項

- ・令和4年度第1回役員会及び総会の結果について
  - 第1役員会及び総会の結果について、概略を報告
- ・後援依頼について
  - 4月26日開催の委員会以降に承認した次の2件について報告
    - ①アートドキュメンテーション学会年次大会
    - ②情報処理学会人文科学とコンピュータ研究会（じんもんこん2022）
- ・災害時の安否確認等について
  - 4月26日開催の委員会以降に発生した災害（2件）について対応状況等を報告（石川県能登地方の地震（6/19）、新潟県・山形県の大雨特別警報（8/3・8/4））

### 3 協議事項

#### （1）公文書館機能普及セミナーについて（資料2）

開催日時	令和4年11月29日（火） 13:00～17:00
会場	松江市市民活動センター交流ホール（松江市白瀉本町43 STIC 5階）
基調講演講師	蓮沼 素子 氏（大仙市アーカイブズ 副主幹）

企画の詳細について以下のとおり協議・決定を行った。

#### ア テーマ

【結論】地域の姿を未来に伝えるために～今求められる市民のための公文書館～

#### 【主な意見】

- ・メインテーマについて、「地域の歴史」という表現は、一般の人にとって“今から過去”というイメージになる。
- ・今回の調査は旧役場文書だけでなく、現用文書の課題も射程に入っている。公文書管理も考えられるテーマになればと思う。
- ・「歴史」ではなく「姿」とすれば、過去も今も含むものと捉えられるのでは。
- ・サブテーマについては、“市民のための”が入った方がよい。
- ・テーマはなるべくシンプルな方がよい。“公文書館機能”という表現はタイトルにもあるし、一般の人にはわかりづらい。“機能”をなくしてもよい。

#### イ 開催趣旨

【結論】テーマと照らして齟齬がないか事務局で点検し、後日メーリングリスト等で意見照会する。

#### 【主な意見】

- ・点検にあたっては、西暦か元号かを揃えること
- ・サブテーマは“市民”、開催趣旨には“住民”という用語が使われている。市民に統一ではないのか。
- ・行政文書をどこまで入れるか。公文書館法によると、歴史公文書だけ扱う。

#### ウ タイムテーブル

【結論】事務局案に異議なし

#### 【主な意見】

- ・事例報告2の報告者は山本氏を先にすること。

#### エ 開催方式と募集人員

【結論】開催方式は現地開催を基本とする。オンライン開催については、定員越えの際の対応や、昨年度のような急遽の切り替えもあり得るものとして準備はするが、一般には周知しない。募集人員は80人を定員とする。

#### 【主な意見】

- ・定員を超えた場合、誰がオンラインとなるのか？→基本的には先着順と考えている。
- ・オンラインの準備をするのであれば、最初から併用すればよいのでは。  
→現地に来る人が減るのでは、という懸念があるため、現地開催を基本とする。

### (2) 調査・研究事業のアンケート及び現地調査について（資料3、資料3-2）

#### ア アンケート調査について

【結論】「記録と史料」の原稿構成については、嶋田委員、山本委員で調整し、後日事務局に連絡をいただくこととなった。

#### イ 現地調査について

【結論】事務局案に異議なし→速やかに相手方に連絡を取り、日程調整を行う。

## 4 その他

### (1) 次回開催日程

- ・第3回委員会は普及セミナーの前後に、松江市の現地調査と同日に行うこととする。

## 5 閉会